

令和5年度 生徒アンケートの結果について

1 回答した生徒について

- ・ 1 学年の生徒 137 名
- ・ 2 学年の生徒 96 名
- ・ 学年が不明 305 名 合計 538 名

※アンケート開始後に、学年の質問を追加したため、学年不明を回答した生徒がいる。

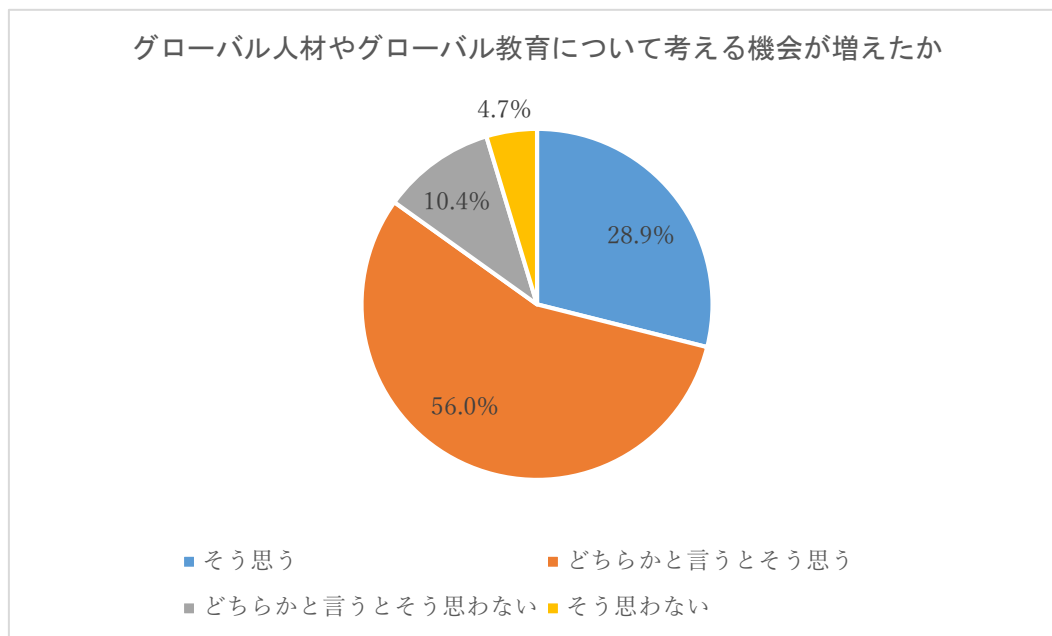
2 質問内容について

グローバル教育に関するアンケート 12 問を令和6年3月に実施した。質問内容については次の通りである。

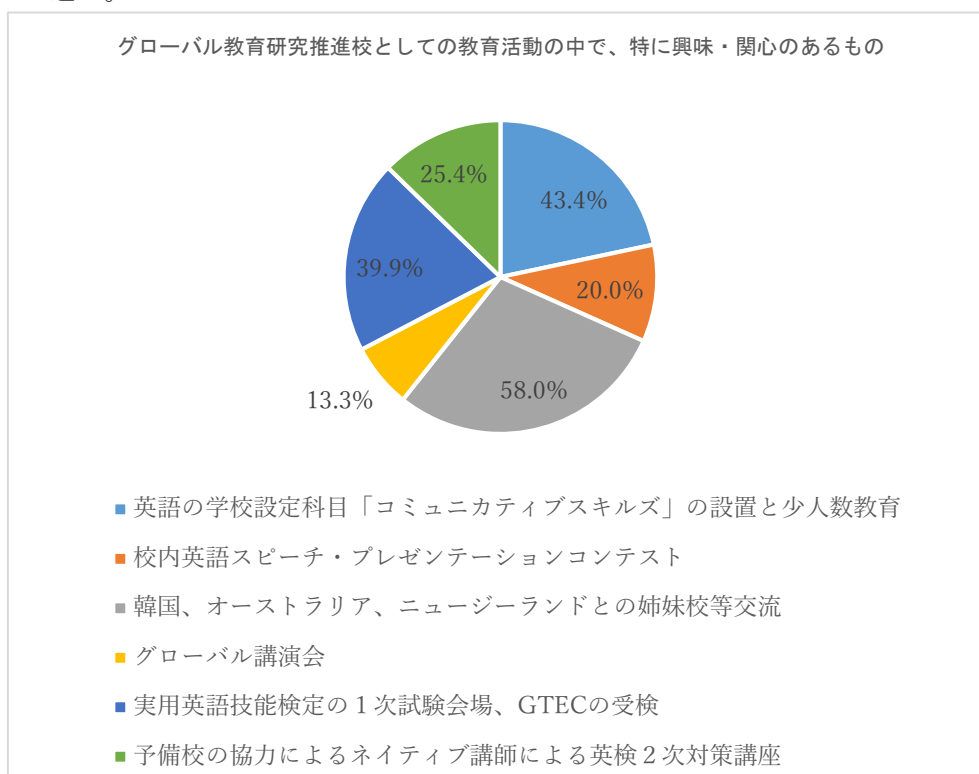
- (1) グローバル教育研究推進校として実施した様々な教育活動をとおして、グローバル人材やグローバル教育について考える機会が増えたか。
- (2) グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるものを2つ選ぶ。
 - ・ 英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置と少人数教育
 - ・ 校内英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト
 - ・ 韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの姉妹校等交流
 - ・ グローバル講演会（横浜市立みなと赤十字病院看護師による講演会）
 - ・ 実用英語技能検定の1次試験会場、GTECの受検
 - ・ 予備校の協力によるネイティブ講師による英検2次対策講座
- (3) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか。
- (4) 入学時にタブレット端末をどのように準備したか
- (5) タブレット端末の機種は何を使用しているか。
- (6) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか。
- (7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まると思うか。
- (8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができると思うか。
- (9) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業で、印象に残る活動について答える。【任意回答】
- (10) 本校では総合的な探究の時間において国際理解研究をテーマに取り組んでいる。この取組をとおして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。
- (11) 特に興味をもつようになった国際社会の諸問題について答える。【任意回答】

3 回答結果について

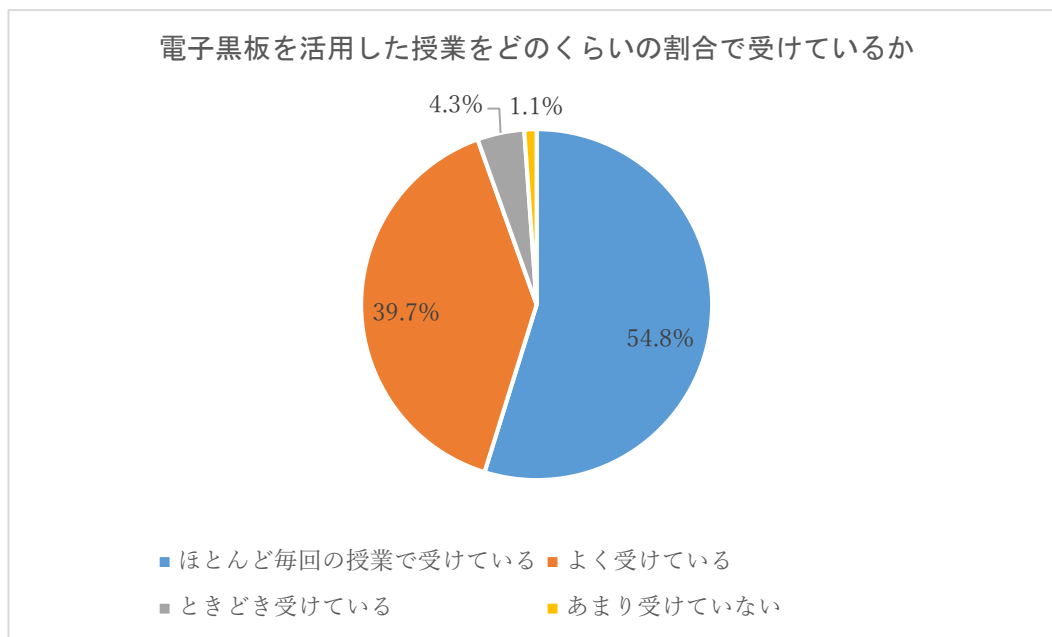
(1) グローバル教育研究推進校として実施した様々な教育活動をととして、グローバル人材やグローバル教育について考える機会が増えたか。



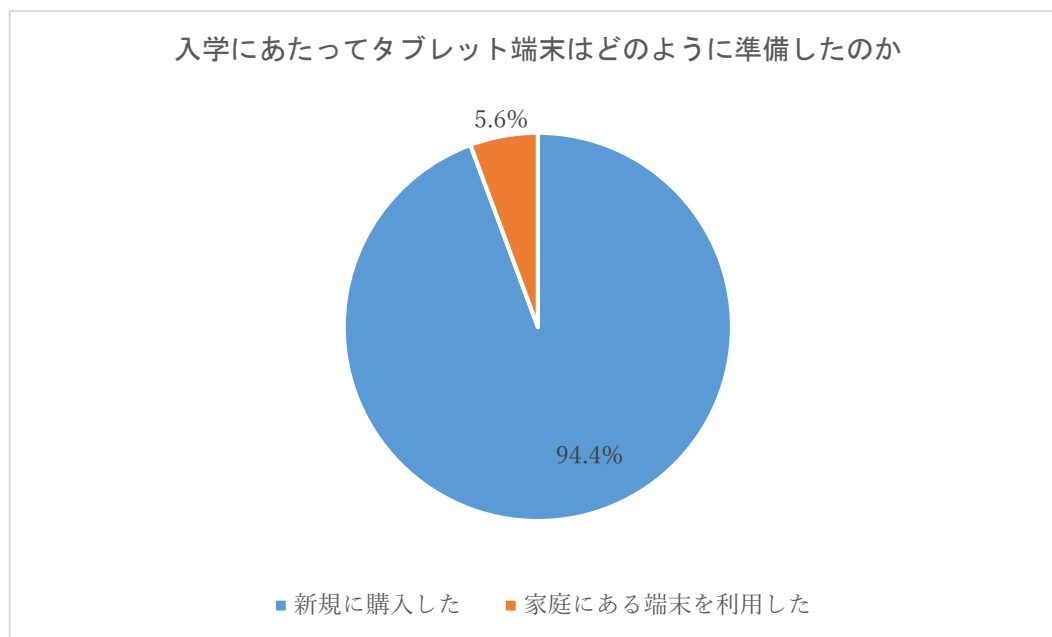
(2) グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるものを2つ選ぶ。



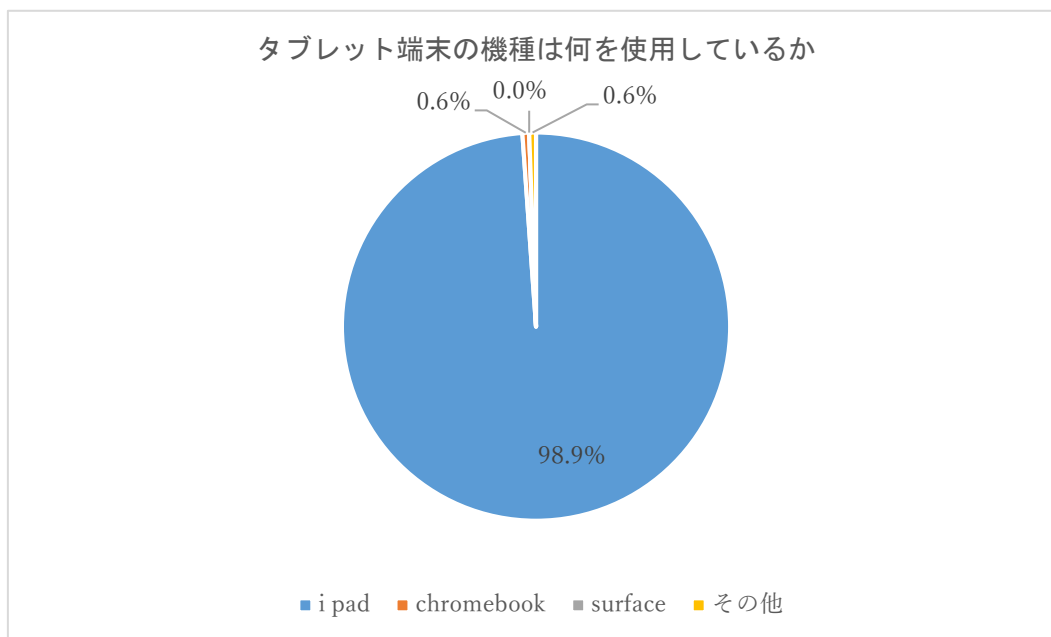
(3) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか。



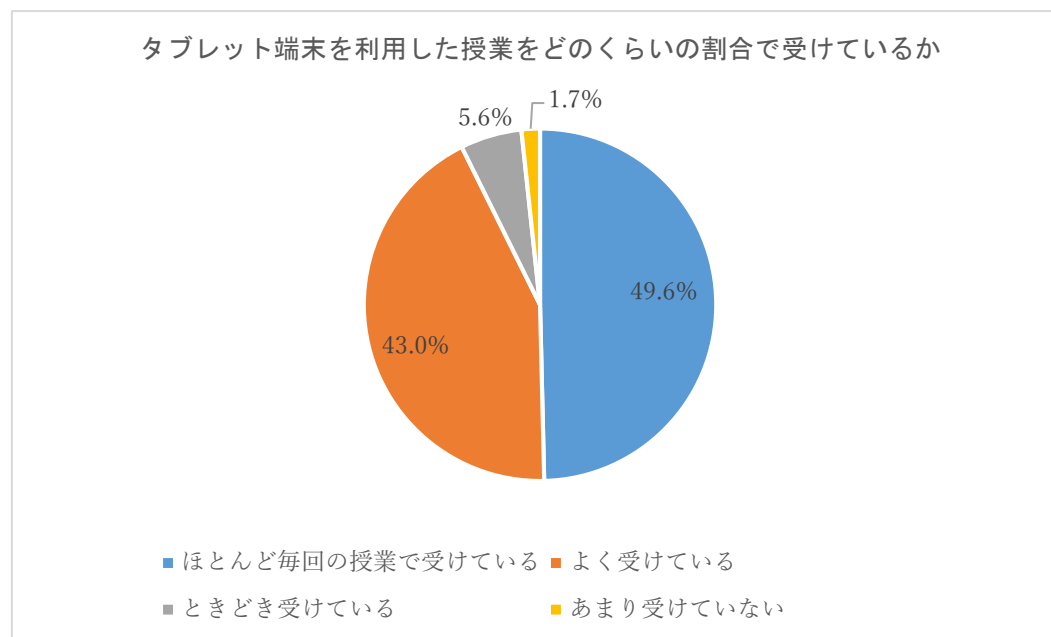
(4) 入学時にタブレット端末をどのように準備したか



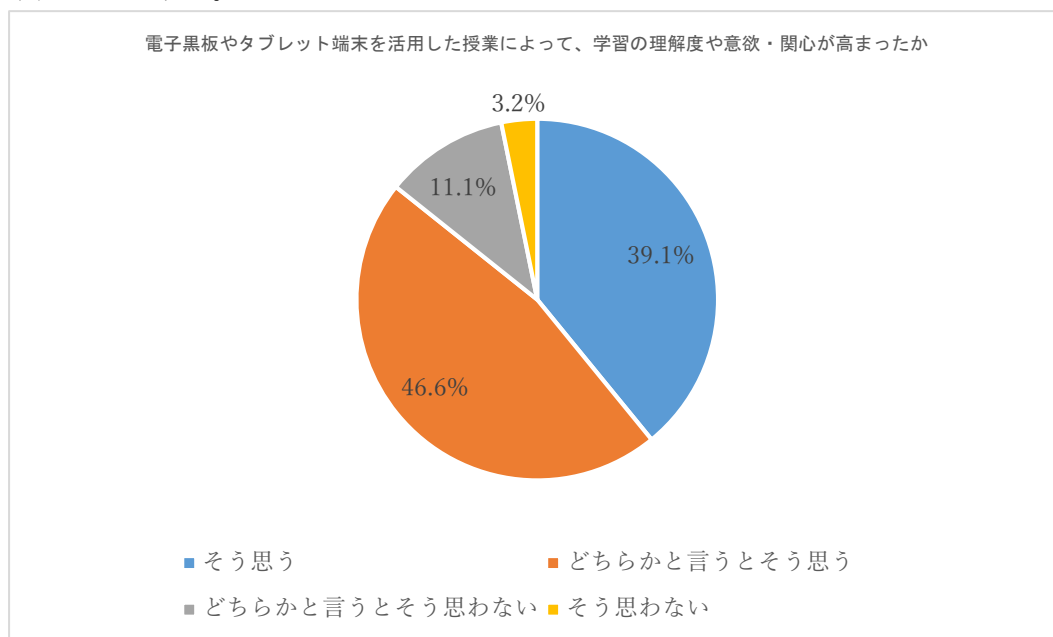
(5) タブレット端末の機種は何を使用しているか。



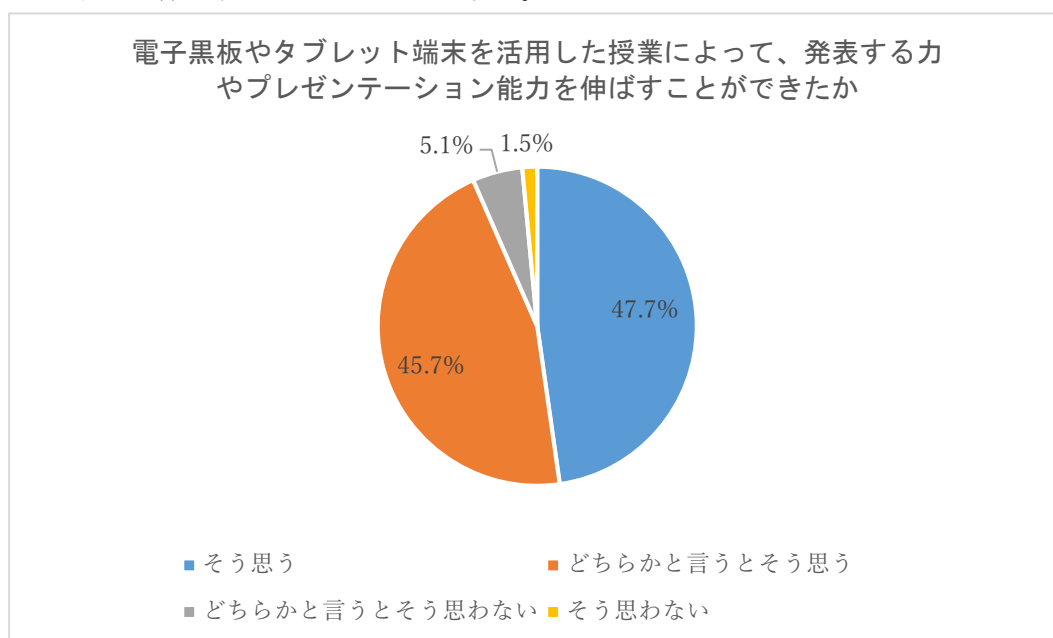
(6) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか。



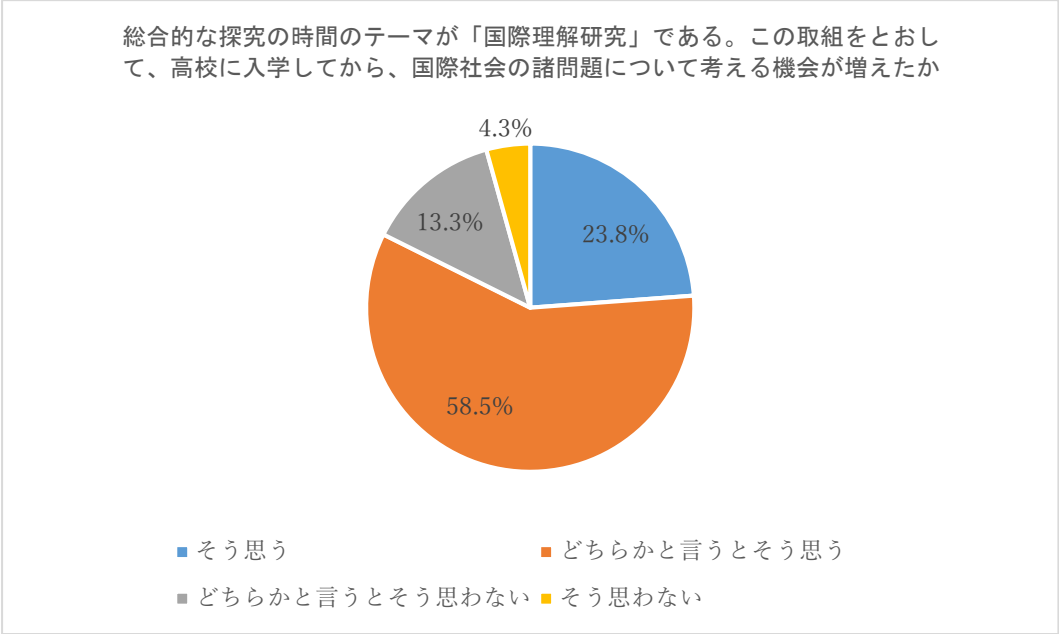
(7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まると思うか。



(8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができると思うか。



(10) 本校では総合的な探究の時間において国際理解研究をテーマに取り組んでいる。この取組をととして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。



4 結果の分析について

肯定的な意見と否定的な意見の回答割合を比較してみると、次の通りになる。

(令和4年度の回答割合も掲載した)

項目	年度	肯定的 (%)	否定的 (%)
(1) グローバル人材やグローバル教育について考える機会が増えたか。	令和4年度	88.1%	11.9%
	令和5年度	84.9%	15.1%
(3) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で受けているか。	令和4年度	91.9%	8.1%
	令和5年度	94.5%	5.5%
(6) タブレット端末を利用した授業をどのくらいの割合で受けているか。	令和4年度	90.4%	9.6%
	令和5年度	92.7%	7.3%
(7) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、学習の理解度や意欲・関心が高まったか。	令和4年度	90.7%	9.3%
	令和5年度	85.7%	14.3%
(8) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって、発表する力やプレゼンテーション能力を伸ばすことができたか。	令和4年度	93.3%	6.7%
	令和5年度	93.4%	6.6%

(10) 総合的な探究の時間のテーマが「国際理解研究」である。この取組をととして、高校に入学してから、国際社会の諸問題について考える機会が増えたか。	令和4年度	88.9%	11.1%
	令和5年度	82.4%	17.6%

(2) グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるもの
【2つ選択する】

	割合 (%)	
	令和4年度	令和5年度
韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの姉妹校等交流	37.4%	58.0%
英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置と少人数教育	54.1%	43.4%
実用英語技能検定の1次試験会場、GTECの受検	34.1%	39.9%
予備校の協力によるネイティブ講師による英検2次対策講座	23.0%	25.4%
校内英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト	22.2%	20.0%
グローバル講演会	10.7%	13.3%
日本赤十字社をはじめとする外部機関との連携	18.5%	

※令和5年度は「日本赤十字社を…」の選択肢を設けなかった。

前ページに掲載した「グローバル教育について考える」「電子黒板とタブレット端末の利用と効果」「総合的な探究の時間」に関する質問については、令和4年度と同様に概ね85%以上の生徒が肯定的に回答した。特に「電子黒板を活用した授業」については2.6ポイント増の94.5%となり、ほぼすべての授業で電子黒板を活用していることが伺える。一方で、「電子黒板やタブレット端末を活用した授業によって…」は5.0ポイント減となった。令和5年度の生徒アンケートは新たに2年生にも回答してもらっていることもあり、肯定的な意見が減少したと思われる。

次に、「グローバル教育研究推進校としての教育活動の中で、特に興味・関心のあるもの」の回答であるが「韓国、オーストラリア、ニュージーランドとの姉妹校等交流」を回答した生徒の割合が令和4年度に比べて、20.6ポイント増加し、英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置と少人数教育」を回答した生徒の割合を逆転した。その理由として考えられるのは、令和5年度から韓国姉妹校交流が再開し、令和5年12月に始興陵谷高等学校の生徒が来校したことにより、多くの生徒が姉妹校等交流に興味・関心を持ったこと

であると考えられる。

このことから、前者については、電子黒板やタブレット端末を授業中に活用するだけでなく、電子黒板やタブレット端末の活用を通して、生徒の学習意欲や関心を高めるための方法を考える必要があると思う。

また、後者については、「興味・関心のあるもの」を2つ選択する質問であるため、全ての項目の割合を引き上げることはできないが、「英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト」や「グローバル講演会」といった生徒の興味・関心が低かった項目について、これを高めるために、「英語スピーチ・プレゼンテーションコンテスト」については、生徒一人一人に対する指導を手厚くすることが考えられる。また、「グローバル講演会」については、生徒が興味を持つ、もしくは進路に関係する方をお招きして講演会を実施してもらうことも考えられる。